

案件第1号 寝屋川市の文化振興事業

No.	事業名	事業概要	R7予算 (千円)	R8予算 (千円)	令和7年度実績、令和8年度予定など	成果・課題・中長期計画等
1	文化振興会議	寝屋川市文化振興条例第11条の規定により、市長の諮問に応じ、文化の振興に関する重要事項について意見を述べる。	118	136	令和7年度 第1回:令和7年8月1日(金) 第2回:令和8年3月27日(金) 令和8年度 年2回開催予定	文化振興会議答申を具現化したイベントである文化芸術祭については、実施内容が定着してきた一方、より集客力のある事業とするため、今後、事業の抜本的な見直しを行う予定である。
2	寝屋川文化芸術祭	市民の文化・芸術活動の成果発表や体験教室、本市文化財の周知を図る機会を市民に提供するとともに、世代間交流を積極的に図り、文化・芸術活動の継承、普及推進を図る。	12,401	15,901	令和7年度:令和7年11月1日(土)・2日(日) 寝屋川市駅前から市民会館までの公共施設及び打上川治水緑地を活用 指定管理者の自主事業として、市民会館で「桂米朝一門会」を、アルカスホールで「津軽三味線ライブ」を実施 参加者数 延べ21,497人 令和8年度:令和8年10月31日(土)・11月1日(日)に開催予定 寝屋川市駅前から市民会館までの公共施設を活用予定 また、市民会館において特別事業を開催予定	文化芸術の発表の場の提供や体験などを与えるとともに、市民が文化にふれる機会を創出することができた。 より集客力のある事業とするため、開催場所や実施内容等について、抜本的な見直しを行っていく予定である。
3	寝屋川ミュージックデー	市内の中・高・高専・大学の吹奏楽部が一堂に会し、日頃の練習成果を発表し、交流を深めるとともに音楽技術の向上を図る。	2,208	2,208	令和7年度:令和7年7月19日(土) 市民会館大ホール 出場者 508人(17校) 入場者 828人 合計 1,336人 令和8年度 令和8年7月18日(土)に市民会館大ホールで開催予定	市内の中・高・高専・大学の吹奏楽部の練習成果の発表の場の提供と音楽技術の向上を図ることができた。 裏方業務の一部を担っていた大阪公立大学工業専門学校が令和9年4月に市外へ移転する予定であり、以降は他校に当該業務を担っていただき、事業を継続していく予定である。
4	囲碁・将棋活動推進事業	本市にゆかりのある多くのプロ棋士が活躍されており、地域や学校においても囲碁将棋教室などが活発に開催されている。このような中、文化活動を担う後継者の育成や世代間交流を進めるため、気軽に参加できる囲碁・将棋教室やイベントを開催し、本市のブランドとなるよう盛り上げていく。	656	656	令和7年度 令和7年4月20日に寝屋川囲碁将棋フェスティバルを開催 令和7年9月20日に寝屋川市小中学生囲碁将棋大会を開催 令和7年11月23日に寝屋川囲碁将棋まつりを開催	小中学生を対象に、囲碁・将棋の普及に努めることができた。
5	市民管弦楽団支援事業	市民参画による管弦楽団の自主的な運営が円滑に行われるよう、練習場所等、各種演奏会開催に向けての活動を支援する。	217	208	令和7年度 令和7年9月21日(日)に定期演奏会を開催 令和8年度 令和8年5月24日(日)に定期演奏会を開催予定	演奏会に向けた市民会館での練習だけでなく、寝屋川ミュージックデーや寝屋川文化芸術祭等、市のイベントに対しても積極的に協力していただいた。

文化・芸術活動の活性化

案件第1号 寝屋川市の文化振興事業

	No.	事業名	事業概要	R7予算 (千円)	R8予算 (千円)	令和7年度実績、令和8年度予定など	成果・課題・中長期計画等
文化振興のための環境整備	6	地域交流センター(アルカスホール)管理運営事業	寝屋川市駅東地区第2種市街地再開発事業による駅前周辺のまちづくり再生事業として、平成23年4月1日にオープン。文化活動の拠点施設として指定管理者による効率的・効果的な運営を実施する。	58,683	77,810	令和7年度(令和8年1月末現在) 利用者数 58,007人 施設稼働率 76.5% (参考)令和6年度(令和7年1月末現在) 利用者数52,740人、施設稼働率74.2% 令和7年度に指定管理者選定委員会を開催し、令和8年度から5年間についても、引き続き、株式会社アステムが指定管理者となった。	引き続き、優れた音響設備やスタインウェイピアノを活用した事業が展開されるよう指定管理者と協議していく。 今後、令和9年までに一般照明用の蛍光灯の製造及び輸出入が終了することから、計画的に照明のLED化を進めるとともに、オープンから約15年が経過し老朽化してきている設備の修繕等が必要である。
	7	池の里市民交流センター管理運営事業	地域の文化・スポーツ活動の拠点となるよう、多目的室、体育施設、文化財資料施設等を含む複合施設として平成18年度に開設。 現在は福祉部局の機能移転により、多目的室と体育施設のみの運用となっている。	36,674	107,938	令和7年度(令和8年1月末現在) 多目的室利用者数 30,146人 体育施設利用者数 23,796人 合計 53,942人 (参考)令和6年度(令和7年1月末現在) 多目的室30,142人、体育施設23,712人、合計53,854人 令和8年度 アリーナの空調設置工事を実施予定	施設の老朽化により修繕箇所が増加している。引き続き、照明のLED化を含め、計画的な修繕・維持管理が必要である。
文化財・地域文化資源の保護と活用体制づくり	8	文化財保護審議会	寝屋川市文化財保護条例第51条に基づき、専門的見地から市指定文化財の指定等を行う。	168	168	令和7年度 第1回:令和7年8月8日(火) 第2回:令和8年1月16日(金) 第3回:令和8年3月17日(火) 令和8年度 年3回開催予定	国指定史跡高宮廃寺跡整備活用事業及び寝屋川市指定文化財十一面観音菩薩立像修復事業の進捗報告を行い、御意見をいただいた。 市内の新たな文化資源について、委員による調査や記録保存を実施していく他、新たな指定文化財候補を選定し、指定に向けて準備を進めていく。
	9	国指定文化財の整備・管理事業	国指定文化財を良好な状態で保存するために、地元管理団体が随時清掃等の環境整備を行う。	402	522	国指定史跡(高宮廃寺跡、石宝殿古墳)が所在する地元管理団体に対して、環境整備等への補助を行った。	地元管理団体が随時清掃等の環境整備を実施した。団体の高齢化により、作業が困難という声も聞かれ、今後の環境整備に係る体制の確保が課題である。
	10	国史跡高宮廃寺跡活用事業	国史跡高宮廃寺跡の保存・活用に向けた、史跡整備工事を実施。 平成25年度～平成28年度 発掘調査 平成29年度 発掘調査報告書作成・刊行 平成30年度～令和3年度 保存活用計画(整備基本計画含む)策定 令和4年度 整備基本計画に基づき、基本設計図書作成 令和5年度 実施設計図書作成	66,176	3,572	令和7年度 史跡整備工事 実施内容:遺構整備工(令和6年度実施箇所以外の遺構)、看板設置工、園路整備工 (工事施工に当たり設計業者に施工管理を委託) 高宮廃寺整備検討会開催(2回) 令和8年度 整備完了報告書の作成及び環境整備を行う予定 文化財保護意識の向上につなげるため、啓発用パンフレットを作成予定 高宮廃寺跡整備検討会を開催予定	史跡整備に当たっては、学識者による高宮廃寺整備検討会を開催し、専門家の指導の下、関係機関と連携し工事を行った。整備完了後の維持管理について、地元団体と協議を重ねており、令和8年度も引き続き地元団体へ委託し、環境整備を行っていく。 整備後はパンフレットを活用し、普及啓発を進めていくだけでなく、市外への発信も行い来訪者の獲得に務めていく。また、定期的に整備箇所の経過観察を実施していく。

案件第1号 寝屋川市の文化振興事業

No.	事業名	事業概要	R7予算 (千円)	R8予算 (千円)	令和7年度実績、令和8年度予定など	成果・課題・中長期計画等
11	府指定文化財の整備・管理事業	府天然記念物2件を良好な状態で保存・公開活用を行うために、地元管理団体へ維持管理経費を補助する。	140	140	府天然記念物2件(神田天満宮のくすのき、春日神社のスタジイの社叢)にたいして保存事業等の補助を行った。	地元と協力し、府天然記念物の保存に努めた。 地元による定期的な目視確認だけでなく、自然災害等が発生した際は市職員による状態確認を行っていく。また、状況に応じて養生や枯れ枝の剪定を行うことで、恒久的な保存に努めていく。
12	太秦高塚古墳公園管理事業	平成14年4月から古墳公園として公開されている市指定史跡太秦高塚古墳の環境整備、巡視等を実施する。	1,818	2,012	令和7年度 シルバー人材センターへ委託し、史跡の環境整備及び維持管理を実施した。 令和8年度 引き続き、史跡の環境整備及び維持管理を委託予定	引き続き、太秦高塚古墳公園の環境整備及び維持管理を実施していく。 また、環境整備及び維持管理とは別に、定期的に樹木剪定を行うことで、史跡の美観を保つとともに、隣接する浄水場への被害を予防する。
13	市指定文化財整備・管理・公開活用事業	普段非公開の文化財の公開を所有者の協力により平成23年度から実施している。 菅原神社本殿(池田中町)、絹本着色方便法身尊像(太間町西正寺)、木造聖観音坐像・八相涅槃図(下神田町法安寺)	1,932	213	令和7年度 ・市指定文化財特別公開 1.菅原神社本殿 令和7年5月9日(金)~12日(月) 参加者数 112人 2.絹本着色方便法身尊像 令和7年11月7日(金)~10日(月) 参加者数 31人 3.八相涅槃図 令和8年3月13日(金)~15日(日) 参加者数 63人 ・寝屋川市指定文化財十一面観音菩薩立像修復事業(公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成事業) 令和8年度 令和7年度に修復を行った十一面観音菩薩立像を含む、3回の市指定文化財公開を行う予定	令和5年度に指定された十一面観音菩薩立像(大念寺所蔵)の修復を行い、文化財の保存を図ることができた。令和8年度は、その公開を行う予定である。 今後も所有者の協力を得ながら公開することで、市民が本市の文化的遺産を身近に感じ、地域愛の醸成を目指す。また、定期的に指定文化財の現状確認を行い、必要に応じて文化財保護審議会の指導の下、修復等を実施していく。
14	市内出土遺物整理	過去の開発に伴う発掘調査により市内遺跡から出土した土器等の整理作業を埋蔵文化財資料館内で実施し、市の責務としてこれまでの発掘調査に関する報告書を作成・刊行する。	4,674	5,002	令和7年度 埋蔵文化財資料館の管理・運営業務と並行し、太秦高塚古墳の報告書発行に向けて、過去の図面や整理台帳を中心とした出土遺物の未整理資料(太秦高塚古墳)を資料館内にて整理した。 令和8年度 讀良川遺跡の報告書発行に向けて、計画的に出土遺物の確認や図面等の整理を進めていく。	大阪北部地震の影響等により、池の里市民交流センターに保管されていた遺物(約6,500箱)が、仮置きという位置付けで香里浄水場と旧教育研修センターに分散保管されるに至った。 現在、仮保管8年目に入り、旧研修センターの老朽化・雨漏り等が著しく、その保管環境は劣悪である。今後、一括収蔵できる場所の確保が必要である。
15	全国史跡整備市町村協議会等への参加	国史跡を有する自治体の研究会や北河内7市の大阪府文化財愛護推進委員で構成する連絡協議会の研修会等での情報交換を通じて、文化財の良好な保存に努める。	58	58	全国史跡整備市町村協議会、近畿地区協議会 河北文化財愛護推進委員連絡協議会研修会 河北文化財愛護推進委員連絡協議会総会	文化財保護行政に関する情報収集及び連携を行った。 今後、河北文化財愛護推進委員連絡協議会については、令和8年度末をもって解散する予定である。以後の連携については、北河内地域文化財活用広域連携会議等の枠組みを活用していく。

文化財・地域文化資源の保護と活用体制づくり

案件第1号 寝屋川市の文化振興事業

No.	事業名	事業概要	R7予算 (千円)	R8予算 (千円)	令和7年度実績、令和8年度予定など	成果・課題・中長期計画等
16	埋蔵文化財資料館管理運営	本市所蔵の考古資料の保管・展示を行い、市民の文化財保護意識の高揚を図る。	1,680	1,763	令和7年度 企画展「いろいろな文様—縄文・弥生土器—」を実施 令和7年8月2日(土)～令和8年7月19日(日) 令和8年度 国史跡高宮廃寺跡の整備工事完了に伴い、同史跡に関する企画展を実施予定	入場者数の増加に向け、企画展のチラシを他市へ配布するなどのPRを図った。 今後も入場者の増加に向けて、企画展や資料館の周知を図り、様々な取組を行っていく。
17	ネットワークサインルート環境整備	市内に所在するネットワークサインの維持管理を行い、市民の散策の利便性に資する。	445	445	令和7年度 ルートサイン管理台帳の作成及びルートサインの板面修繕を行った。 令和8年度 現行のルートマップの更新を予定している。	サインの形状、設置年度、修繕歴、設置場所地図、現状写真、整備補助費の有無及び設置契約更新有無を1枚の台帳にまとめることで、ネットワークサインを一括管理できるようになった。 サインの経年劣化や盤面の記載内容の変更に伴う修繕が課題となっている。
18	その他の事業(新寝屋川八景の周知含む)	「新寝屋川八景」のクリアファイルを各イベントで配布し、八景の周知と郷土愛の醸成を図る、等。	106	106	令和7年度 新寝屋川八景をモチーフにしたスタンプを作成し、寝屋川文化芸術祭においてスタンプラリー及びクイズラリーを実施するとともに、新寝屋川八景がデザインされたクリアファイルをクイズラリーの景品として配布した。 また、新寝屋川八景を周知するためのパンフレットを更新し、より見やすく、利便性に優れたものに刷新した。 令和8年度 新たな周知方法として、市民参加型の「新寝屋川八景写真募集事業(仮)」を行う。	参加者の多いイベントにおいて、スタンプラリー及び新たな試みであるクイズラリーを実施し、新寝屋川八景に興味を持っていただく機会が創出できた。また、景品として持ち帰っていただく事で、参加者以外の家族等の目にも触れていただけるようにしたことで、より周知を図ることができた。 今後も様々な手法を検討し、新寝屋川八景の周知を図っていく。